

行政視察報告書

令和 7 年 6 月 6 日

長浜市議会議長 高山 亨 様

長浜市議会議員 北川 陽大

私が出席した次の行政視察の結果について報告します。

記

1. 視察等名 令和 7 年度議会活性化検討委員会行政視察研修
 2. 視察期間 令和 7 年 5 月 2 7 日 (火)
 3. 視察場所及び目的
三重県いなべ市
議会における行政評価について
 4. 調査内容感想等
- ・視察の目的

三重県いなべ市議会の議会検証評価特別委員会は 2 0 2 5 年 3 月 19 日、市議会第 1 委員会室で第 10 回会合を開催。市議会では (公財) 日本生産性本部が開発した地方議会成熟度評価モデルを実装化。自己評価書を踏まえた第三者評価 (外部評価) が行われた。同評価モデルで第三者評価が行われたのは福島県会津若松市議会に続いて全国で 2 番目と言われている。

市民と議会のフォーラム」を開催し外部評価に重きを置いている議会となっている。より市民に近く関心を持たれる議会を意識しておられ、これが長浜市議会においても非常に参考になると考える。

・ 視察内容

いなべ市議会では、「地方議会成熟度評価モデル」による検証評価から得られた課題を、重要度・緊急度から整理し、行動計画に落とし込みを行っている。第三者評価の総評では、『重要度・緊急度が高い』と分類した6項目については短い期間ではあるが精力的に取り組んできたことが確認できていると評価されている。議会の取り組みに対して、正しく振り返り評価をし、その結果を市民に伝える取り組みを心掛けておられる。まだこの取り組み自体は1年強だが、確実に外部から評価されている。

取り組みを継続して、市民の認知度向上を行い市民へのフィードバック方法の確立をする。また、仕掛けは広報広聴委員会、実践は議員の全員参加で行うべきという次のステップに向けての課題もあるとのこと。更に、広報広聴委員会での市民との対話会に関して、若い世代の参加が非常に少ないため、幅広い世代からのヒアリングをどのように拾いあげるかの課題は長浜市と同じと感じた。

ただし工夫されているのは意見の聴取に関してであり、広報広聴の行動計画に関しては一期二期目の若い議員が担当している。つまり、より市民に近い議員が担当するべきとの考えがあるのだと推察される。また、若い世代を対象にした意見交換会があり、それは市内の各町ごとに行っているとのことだ。そういった工夫や配慮が見られると感じる。

また、自己評価で人数が割れた設問に対しては認識にズレや差があるようだが、どこに違いがあるか確認すべきと感じておられ、議会全体で共有できているか。議員間で話し合って意識合わせを行うことが必要との声があるようだ。

取り組み始めて一年だが、確実に成果が見えており、いなべ市は次の段階にステップが踏めていると感じる。当市でも議会質問や委員会でも取り上げた課題がその場だけで終わっていないか検証し、外部評価をされる必要性も感じる。
